

From the World Conference

JCS 2020 Congress

2020年7月27日～8月2日 **ウェブ開催**

岩崎 雄樹 日本医科大学大学院医学研究科循環器内科学分野准教授

はじめに

2020年7月29日～8月2日の1週間、京都大学の木村剛会長が主催された日本循環器学会学術集会在開催された。本来3月に京都国際会議場で開催される予定であったが、未曾有の新型コロナウイルス感染症のパンデミックは本学会の開催にも大きな影響を与えた。世界各国から循環器領域のオピニオンリーダーを招いて開催される本学術集会は、最新の研究成果を発表する場であるのみならず日本循環器学会が作成したガイドラインシリーズの公表や生涯教育としての知識のアップデート、また若手医師の知識の習得など教育の場としても重要な役割を担っており、まさにわが国の循環器領域の研究・臨床・教育の発展のためになくてはならないものである。残念ながら3月の時点では感染者数が全国的に増加していく状況にあり、医療従事者が一堂に会するリスクが払拭しきれず、延期となった。そのような状況ではあったが、webを駆使した開催方式が採用され、はじめての試みで不安はあったものの全国・世界各国より多くの参加者がweb上で集い、盛大な学術集会となった。

本稿では、ライブ配信で行われたtopicセッションとガイドライン解説について紹介する。

Topics

英国よりLip教授が招待され、Topics: Arrhythmia "6. Primary Prevention and Early Detection of Atrial Fibrillation"の座長を務められ、キーノートレクチャーとして「Management of Modifiable Risk Factors for the Development of Afib」を発表された。発作性心房細動から持続性心房細動に移行するに依り血栓塞栓症

や出血のリスクが高くなるので、構造的リモデリングが進行に深く関与する修正因子(肥満・血圧・睡眠呼吸障害・糖尿病・脂質異常症・飲酒・喫煙)のコントロールが重要であると報告した。また、2020年9月に発表された欧州心臓学会(ESC)ガイドラインでも採用された心房細動治療のThe Atrial fibrillation Better Care(ABC) pathwayについて紹介され、まずA:脳梗塞を予防し、その後にB:症状を改善させ、最後にC:心血管疾患などの危険因子を管理するという流れが治療に重要であると解説された。その他このセッションでは、心房細動予防のためのレニン・アンジオテンシン系のアップストリームアプローチの話題、心房粗動の一次予防としての肺静脈隔離術の有用性、洞調律の12誘導心電図からAIを用いて心房細動の患者を同定する方法、心房細動同定のための植込み型デバイスに関する話題が提供された。心房細動は脳梗塞や心不全など重篤な疾患の原因となる疾患であり、早期発見による早期介入の重要性が議論された。移動制限がある状況下でも世界で活躍される先生方からレクチャーをリアルタイムで受けることができ、web形式の良さを体験することができた。

『2020年改訂版 不整脈薬物治療 ガイドライン』の紹介

その年に発行された日本循環器学会ガイドラインシリーズの学術集会以外の解説も大変人気のあるセッションであるが、今年はweb上ですでに公表されている内容がライブ配信された。日本循環器学会ガイドラインシリーズである『不整脈薬物治療ガイドライン』は、『心房細動治療(薬物)ガイドライン』は2013年の改訂を挟んでいるが、不整脈薬物治療としては11年ぶりの改訂となっ